

アジア太平洋地域のMV-22B オスプレイ

スケジュール:

- 2012年7月25日: 岩国航空基地到着
- 2012年9月24日: 機能点検飛行開始
- 2012年10月1日: 沖縄へ輸送
- 2012年10月: 韓国烏山で航空ショーに参加
- 2012年11月1日: フライトシュミレーター使用開始
- 2012年11月: 沖縄を離れグアムで訓練実施
- 2013年1月・2月: 沖縄を離れフィリピンやタイで訓練実施 (コブラゴールド2013)
- 2013年2月: 強襲揚陸艦に着艦
- 2013年3月: 沖縄を離れナビゲーション・ルート訓練を実施 (日本本土)
- 2013年4月: 沖縄を離れフィリピンで訓練を実施 (演習バリカタン)
- 2013年4月: 沖縄を離れ韓国で訓練を実施 (演習サンヨン)
- 2013年5月: 第265海兵中型ティルトローター飛行隊が第31海兵遠征部隊に配備
- 2013年6月: 第265海兵中型ティルトローター飛行隊がボナム・リシャルにオスプレイを搭載し展開
- 2013年7月: 沖縄を離れオーストラリアで訓練を実施 (演習タリスマン・セイバー)
- 2013年7月: 第2陣、岩国航空基地到着
- 2013年8月: 第2陣、沖縄へ輸送



MV-22B オスプレイの機能とメリット

• 安全第一

- 優秀な運用安全記録を保持しています。
- アメリカや世界中で飛行し、ハイチ、リビア、イラク、アフガニスタンなど厳しい環境で訓練、人道支援、戦闘活動を実施してきました。また、海兵遠征部隊(MUE)へも何度も派遣されています。

• 革命的な技術 – スピード、搭載量、航続距離

- ヘリコプターの機能と固定翼機のスピードや航続距離を併せ持っています。
- 旧型のCH-46ヘリコプターと比べ2倍の速度、3倍の搭載量、4倍の航続距離を備えています。
- 高高度飛行及び空中給油が可能です。

• 同盟国にとってのメリット

- 日本の防衛能力を強化します。
- 災害救助対応能力が向上します。
- 地域の平和と安全に、より効果的に貢献します。

• 沖縄にとってのメリット

- 比較的音が静かでより高く飛行し、県外でも訓練を実施します。
- より高く、より早く飛行するため人口密集地での飛行を減少します。
- その独特な機能により、地域全体に配備が可能で航空訓練移転計画(ATR)にも参加するため、沖縄での配備および訓練時間が削減されます。



世界中での飛行時間:

150,000時間以上

日本到着以降の飛行時間:

6,000時間以上

沖縄でのシュミレーター

使用時間:

1,500時間以上

安全性、機能向上、同盟国と沖縄へのメリット

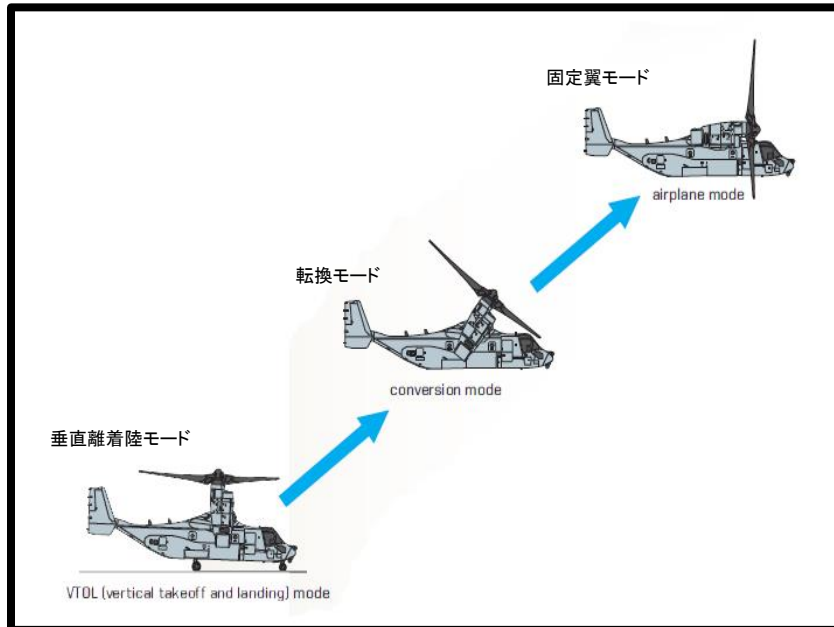
MV-22B 運用 – 地域社会への影響を軽減

- MV-22 コックピットのデジタル・ムービングマップ
 - パイロットは離陸前にコンピューターに飛行ルートを入力します。
 - 乗務員は地上の位置から正しいルートを確認します。
 - 人口密集地域や注意の必要な場所を回避します。
 - 安全性を強化します。
- 全ての航空機は、午後10時以降、地元にとって特別な日、日曜日の飛行をできるだけ少なくし、運用上必要な時のみ飛行
- 理解を深めるため長期的に継続して啓蒙活動を実施
 - 日本政府高官訪問日、オリエンテーション飛行を実施しています。
 - 報道関係者対応やオリエンテーション飛行を実施しています。
 - オスプレイ家族見学会や航空ショーに参加しています。
 - 報道関係者、地元防衛局、日本政府向けに情報提供をしています。
 - ニヶ国語のMV-22 情報、概要書、ビデオなどに簡単にアクセスできます。



MV-22B 運用- 重要事項

- 全ての飛行運用は標準航空交通手順を基準として、騒音軽減やその他既存の合意に従い、指定された飛行場空域の範囲内で運用しています。
- ほとんどのオスプレイ飛行運用は固定翼モードで飛行し、ヘリコプター(垂直離着陸)や転換モードは通常離発着時や、訓練施設やヘリパッドで実施されます。
- ヘリコプターや転換モードで普天間飛行場の空域や場集経路から出入りする際、全ての運用は安全に飛行を実施し、騒音を最小限に留めることに焦点を当てています。



MV-22B は、運用上および安全上の要求に従って転換モードを実施します。

- 飛行場に接近する際、安全着陸のために減速する目的で固定翼から転換モードに変換する必要があります。
- 常に安全性を第一に考え、機長の判断で最適な転換モードへの切り替えのタイミングを決めます。
- 着陸のためモード変換が行われる際、様々な天候や風況、航空管制必要条件、視界、その他の環境要因が関わってくるため、規定された正確な距離はありません。
- 機長は、米軍施設外や人口密集地上空で転換モードでの飛行を最小限に抑えるという合意を含む全ての要因を考慮して、安全着陸のための転換モード開始のタイミングを決定します。